

新山協ニュース

△ 発行者 鈴木敏雄 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男 方 TEL 0258-32-0428

ソ連領天山山脈開放される!!

海外登山委員会

天山山脈のソ連側は、一部の例外を除いては外国人の立ち入り出来ない地域であったが、89年、この地域の一部、ハン・テングリ(7010m)を中心とする地域が開放されることとなり、先日アルマ・アタ市のスポーツ委員会から3名が来日し、詳しい説明があった。これはパミール国際キャンプと同じ方式で行なわれるもので、名称は、「天山ハン・テングリ国際キャンプ89」、クライミングのほか、トレッキングの日程も設けられている。

また、これらの日程とは別に新たなスケジュールを組むことも可能で、今のところ日本向けとして、5000m未踏峰登頂プログラム(8月11日~28日)などが用意されている。とく

に当日の説明では、日本からはハバロフスクを基点としての入出国の計画が可能であり、時間、経費の面で大いに節約出来そうである。

関心ある方は左記に問い合わせ下さい。

田中純夫

新潟市川岸町2-13-7

電話 0251-267-2743

0251

(267) 2743

五泉、村松地域山岳団体

親睦登山報告

菅名山岳会

落合勝志

五泉、村松地域における山でも……」等、理由はさまざまですがレジャーがらみの入

に訪れる登山者も近年の余暇、増えつつあることはご存知のとおりであります。

登山知識や装備、食糧など基礎的なことは別にしても、「天気が良いから」「山菜で「軽く汗を」「写真

野外活動によって年ごとに増

このたび、当菅名山岳会で

呼び掛けを行い、五泉、村松地域山岳団体で県山協加入に

評議員会案内

期日 4月9日(日)

午後2時~5時

会場 新潟市弁天1

青年の家

議題

1. 昭和63年度事業報告
2. 昭和63年度会計報告
3. 会計監査報告
4. 平成元年度予算案
5. 平成元年度事業計画案
6. 規約改正
7. 役員改選
8. その他

* 各団体は評議員の派遣をお願いいたします。

して頂き、親睦登山を実施した結果について左記のとおり報告します。

記

1.目的

○五泉、村松地域における岳人の相互融和と協調を

- ①ハン・テングリ登頂 7月14日~8月12日
- ②天山トレッキングA 7月16日~7月29日
- ③天山トレッキングB 7月16日~8月8日

図り、親睦を深める。
○五泉、村松地域における

山岳事故、遭難にたいし、相互協力と連絡体制の確立に努める。

2.日時 平成元年2月11日
3.会場 村松地内
白山(1012m)

ここからは各団体が一つになつて小刻みなラッセルに精を出しての合同作業となつた。

4.参加団体 菅名山岳会、矢筈山岳会、五泉山の会、五泉山好会、あすなる会

途中2回ほど休憩をしながら頂上到着は11時10分。

5.参加者 20人
6.報告

天候は最初は青空の快晴であつたが、

11日午前7時30分、滝谷慈光寺に集合、境内門前の杉並木の太木の下で参加者の確認、装備等の点検をそれぞれおこない、同8時から地元山岳会の挨拶や今日の計画に至る経緯と、今後の取り組みなど主旨の説明などがあり、8時20分同所出発。

山の神(通称四百)コースを各団体の自由登行として行動に移るが、最初の登りは急でワカンをつけるとかえつて足元が不安定なため「ツボ足」

となる。
462m地点で休憩をとり斜面が緩やかになつたためワカンをつけての行動となり、ここからは各団体が一つになつて小刻みなラッセルに精を出しての合同作業となつた。

幸か不幸か天候に恵まれず、たこと、積雪を考慮して、参加者全員が入れる4m×2mの深さ1.5mの堅穴式のテール付居住空間を白山の頂上に施工した。(屋根はフラ

イシート)
参加者の自己紹介、持参の料理や飲物を互いに交換し、午後1時を期して袴腰コースの下山にかかる。一行のうち山スキー6人はシルルをとり滑走に移る。

峡彩山岳会

会報発刊の案内

峡彩山岳会の会報「岳神13号」(B5版240ページ)が、昭和54年以来、10年振りに発刊の運びとなりました。

滝谷慈光寺到着は午後2時45分で、山スキー6人が20分ほど遅れて着き、一次解散し第2会場の懇親会場へと足を進めた。
次の主管団体を「五泉山の会」から担当していただくことと、参加者の顔合わせ、懇親を深めることなどに花がさき午後8時それぞれ愛妻の待つ家路へといそいだ。

事務所変更

菅名山岳会

〒959の16

五泉市本町1-7-24

中村 由夫 様方

☎0250(42)1677

1. 藤島玄先生の死を悼む
2. 七星正伝と伝説(会創立者7名の履歴とひととなり
の紹介) 7編

3. 飯豊山系地域研究Ⅳ(春夏冬各合宿の詳細な報告、写真20頁、沢ルート図12頁) 50編

4. 月例山行(北アルプス合宿、名山訪問、奈良交歓登山、川内山塊、葡萄山塊、

山、川内山塊、葡萄山塊、



五頭山、焼峰山等、会の行事として行った山行の報告(27編)

どの時間から始まったのか解らない。0秒のスタートから信号を送ると救援信号は7回、

5. 個人山行(会員が単独あるいはグループで訪ね歩いた峰々の山行報告) 16編

？ 救援信号を10秒から送ると6回になるが、1分10秒信号が途絶える。同じ事が応答にもいえる。

6. 随想(忘れえぬ山の夜のエッセー集他) 12編

回数に重点を置くのか、時間を中心に考えるのか、考えるだけで使ったことが無いので迷ってしまう。

7. 遭難救助、捜索(依頼により当会が出勤した救助の捜索活動の記録、二王子岳、弥彦山、巻機山、飯豊連峰等) 10編

どなたか教えてもらいたいと思う。

8. 山行年譜 等々

希望者には有料配布を行なっております。峡彩山岳会事務局まで申し出てください。

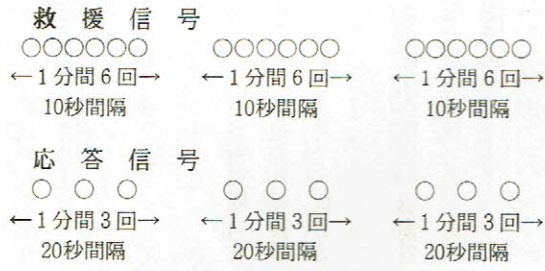
「へそまがり」

救援信号について

だれもが山へ行く時に教えられる信号方法である。だがちょっと変な気がする。

信号を送る人、受ける人、

万国共通救援信号



第27回日山協海外登山

技術研究会報告

海外登山委員会 田中純夫

さる2月25日(土)、26日(日)の2日間、東京・八王子市の大学セミナーハウスで第27回日山協海外登山技術研究会が開催された。この研究会ではここ数年、アルパイン・スタイルによる高峰の速攻登山、8000m峰の無酸素登山、冬期8000m峰登山などを主テーマとして取り上げてきたが、今回は人生80年時代を迎えて益々盛んになる一方の「中高年者の高峰登山」をテーマとして設定し、高峰登山の新局面を検討してみることにした。

日程第1日目は、まず日山協石塚副会長のあいさつ、神崎忠男海外委員長の研究会の趣旨説明、日程説明、事業報告のあと、セッションとして「中高年者の高峰登山」をテーマにパネル・ディスカッションが行なわれた。パネラーはレーニン峰(7134m)、食後は各県の海外委員だけの小会議がもたれ、この席で神崎海外委員長より、日山協の海外委員会も財政事情が厳しく、この面で今後いろいろとお願ひすることもあるかも知れない、との話があった。

その後交友館で懇親会がもたれ、それは二次会へと流れ、深夜、未明まで山をめぐっての話は尽きなかった。

翌26日はセッションとして「地域研究 天山山脈——ハン・テングリ山塊」のテーマのもと、ソ連邦カザフ共和国スポーツ委員会山岳連盟より3名を迎え、この山域についての紹介がなされた。スライドを上映してソ連の山々が紹介され、また1989年か

ことで、日本ヒマラヤ協会

山森欣一氏よりここ10年間に

かりのヒマラヤ登山の推移、

ヒマラヤ登山に対する意識の

変化、タクティクスの変化な

どについて報告があった。

ここで夕食となったが、夕

セッション(7134m)、

ブロード・ピーク(8047

m)、ラプチェ・カン(73

67m)、リモー峰(738

5m)、コミュニティズム峰(7

495m)、ヤン(6230

m)などに登頂した40才以上

の中高年のヒマラヤニスト6

名で、司会は尾形好雄氏によ

って行なわれた。ここでは各

パネラーからそれぞれの高峰

登山の実際、日常のトレーニ

ング、若い時との比較などが

話され、今後ますます増える

であろう中高年者の高峰登山

を考へるにあたって、参考と

なる意見が多々あった。

続いてセッションⅡでは、

「現代のヒマラヤ指向とヒマ

ラヤ諸国の最新情報」という

紹介され、また1989年か

らは天山山脈のハン・テング Vとして日山協海外担当理事
 リを中心とした地域が、新たな大宮求氏からクリミア・ワ
 に開放されることであつた。イルドカップ、UIAAワ
 ルドカップ、第2回ジャパン
 カップの報告があつた。

以上で予定された日程はす
 べて終了し、神崎海外委員長
 つとめた重廣恒夫氏よりタク
 よりあいさつがあつて散会と
 テイクス等についての簡単な
 なつた。

報告があつた。なお平成元年度日山協海外
 委員総会は兵庫県で行なわれ
 以上で2日目の午前の部は
 終了、午後からはセッション
 の予定である。

理 事 会 報 告

3月4日(土)午後3時
 5時30分長岡市けさじろ荘で
 開催。

参加者 室賀会長、望月副
 会長、鈴木理事長、佐藤、五
 十嵐参与、石田国夫、桑原悌
 治、藤井信、坂井厚、北村猛、
 高橋秀樹、山田勲、藤井洋、
 田中純夫、堀井浩、杉本敏各
 理事、委員。

1. 分担金入金状況報告
2. 昭和63年度会計中間報告
3. 行事分担金入金報告

各行事参加者より200円
 徴収、協会会計へ。

4. 委員会分担金入金報告
5. 昭和63年度事業報告
6. 平成元年度事業計画
7. 評議員会、国体県予選会、
自然保護、日程決定。他は
評議員会まで調整。
8. 中国大興安嶺遠征について
参加希望者30数名。高校生
の参加検討する。
9. 任期満了による新年度役員
について
10. 望月副会長辞意表明。評議
員会まで調整。
11. 原生林の夕べについて
12. 5月6日新潟県民会館にて
海外登山委員会より
13. 海外登山地域の開放拡大
ソ連の登山地域の開放拡大
報告
14. 賛助会員について
15. 会員の増加勧誘を強化する
16. カンパについて
17. 北海道冬季国体で静岡県代
表選手の死亡によるカンパ

第44回国体県予選会案内

14. 大岳スキーツアーの案内
 16. 都岳連40周年報告
 17. 越後支部行事案内
- 期日 平成元年4月29日(土)
 会場 新発田市
 集結地 新発田市上赤谷
 社会教育センター
 監督会議
 4月29日(土)9時
 新発田市上赤谷
 社会教育センター
 参加料
- 競技、踏査、登攀
 14時30分 表彰式
 社会教育センター
- 使用地図 国土地理院発行
 2万5千分の1
 上赤谷、東赤谷
 競技日程 4月29日(土)
 9時~9時25分 受付
 社会教育センター
 9時30分~9時50分 開会
 新発田三軒屋町
 4847-1
- 成年監督選手 1500円
 少年監督選手 1000円
 申込締切 4月22日(土)
 協会事務局宛
 競技等の問い合わせ先
 国体委員長 高橋秀樹
- 電話 025 / (259) 5434